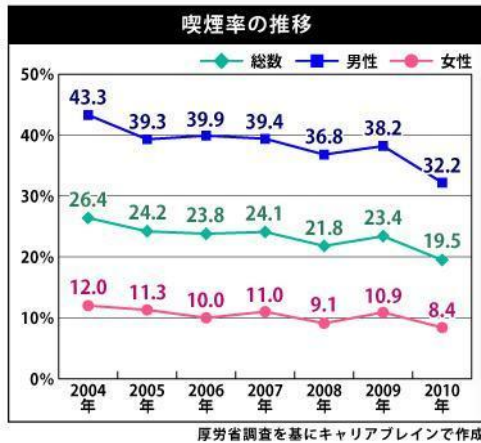


週刊 タバコの正体

前回、厚生労働省が発表した2010年国民健康・栄養調査によると、喫煙率は日本全体で19.5% 男性は32.2%、女性は8.4%にまで減少した事を紹介しました。(左下グラフ)



現在習慣的に喫煙している者の割合

男性(20歳以上)

都道府県	割合(%)*
1 青森県	44.8
2 和歌山県	44.7
3 鳥取県	43.7
4 北海道	42.6
5 山梨県	42.5

じつは、この調査には「都道府県別」のランキング(右上)も発表されていて、我が和歌山県の男性の喫煙率は44.7%で、なんと1位とほぼ同率の全国2位でした。左のグラフにある男性喫煙率の32.2%より、10%以上も多いのです。和歌山県の成人男性の人口は約40万人ですから、その10%は4万人に相当します。つまり全国レベルに比べて喫煙者が4万人も多いわけです。

4万人と言えば、有田市や御坊市、それに新宮市の人口を超えています。

「へー、そんなに多いの」って感じませんか。こんなに多いと「和歌山はタバコくさい」ところになっているはず。という事は、他人のタバコを強制的に吸わされる“受動喫煙”の機会も他府県に比べて、多くなっているはず、ですよ。

「いやー、それも困るなー」って感じませんか。私達は、ずーっと和歌山で暮らしていますから、自分達の地域がそんな事になっているなんて気づきようがありませんでしたが、知ってしまえば、「なんとかした方がいいんちゃう」って思いませんか。

今タバコを吸っているニコチン依存の大人達に禁煙してもらえばいいのですが、これが、なかなか難しいのです。そこで、皆さんの出番です。これから大人になる君達が、タバコを吸い始めなければ、確実に和歌山はタバコくさくなくなっていくます。

愛する和歌山を誇らしいふる里にするために、タバコはやめておきましょう。

産業デザイン科 奥田 恭久